

北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト(大津地区)

事業実施者: 北部太平洋まき網漁業協同組合連合会 使用船舶名: 第十一不動丸(網船300トン)
支援期間: 平成28年1月15日～平成31年1月14日 (大中型まき網漁業)

(取組みの内容)

- 船団の合理化: 運搬機能付き網船(300トン)を導入、1船団3隻44名体制から、探索船を削減し、1船団2隻39名体制に移行
- 資源管理の推進: マサバ太平洋系群管理方策及び北部太平洋まき網漁業におけるサバ類の試験的IQ管理実施計画に協力
- 高品質製品の生産・水揚: 漁獲物の冷海水締め、船上凍結、コンテナケース積みにより付加価値向上
- 省コスト化: 操業体制を1船団2隻39名体制にすることにより、人件費、燃油費及び氷・塩代、修繕費を削減
- 網船の安全性・居住性の向上: 船団合理化に導入する300トン型網船について、十分な安全性及びILO基準に準拠した居住環境の確保
- 漁港、関連施設の復旧・復興への対応: 復旧・復興の途上にある魚市場、加工、流通機能に即した適正水揚げを実施し、食材の供給及び地域全体の水産業の復興に努める。



運搬機能付き網船



石巻漁港におけるサバの水揚げ

(事業の成果)

- 船団のスリム化による**1船団2隻操業体制で支障なく操業可能なことを確認**した。
- サバ・イワシ類を主体に3ヶ年平均で20,775トン水揚し、水揚金額は1,296百万円であった。
うち、冷海水締め鮮魚は、1,639トン水揚し、100百万円の水揚金額であった。
- 省コスト化の取組みについては、水揚量が増えたため人件費、氷・塩代は増加したものの、燃油費の15%削減を達成した。
- 網船の大型化によって復原性の向上と居住環境の改善が図られた。
- 大津港へサバ・イワシ類を3ヶ年平均で1,364トン水揚し、復興促進に貢献**した。
- 償却前利益は358百万円/年(3ヶ年平均)となり、復興計画(266百万円/年)を上回り、次世代船の建造が期待される。**